| 授業科目名 | 経済学入門（国・公） | 担当教員名 | 長濱　幸一／佐藤　佑一 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 春学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 1年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 「経済学を学ぶ入り口」<br>　本講義は経済学部に入学した１年生を主な対象として、今後、本格的な経済学を学ぶために必要な基礎的な知識を提供する。経済学がどのような問題に関心を持ってきたか、現代の経済社会がどのように形成されてきたか、そしてミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な把握などが主な内容となる。<br><br>なお本講義は1～10回を長濱が、11～15回を佐藤が担当する。そのため、それぞれの担当者の初回の講義で説明を行うので、注意すること。 |
| 到達目標 | ①経済学に興味関心を持つことができる(意欲・姿勢)<br>②経済学がどのような問題に関心を持ってきたか理解できる(知識)<br>③現代の経済社会が形成されたプロセスを理解できる(知識)<br>④理論経済学の基礎となる考え方を身に着ける（知識）<br>⑤自分の考えや知識を的確に表現できる(技能) |

| 評価の方法と基準 | 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|---|
| | 平常点 | | |
| | 小テスト | | |
| | レポート | | |
| | 定期試験 | | |
| | その他 | | 本講義は２名の教員が担当する。採点割合は長濱(60%)、佐藤(40%)とする。それぞれの担当教員の評価方法については、各担当者が最初の講義 |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 事前に配布する講義資料を利用して予習しておくことが望ましい。授業後は講義資料を利用して自分なりに整理することで、経済学に関する基礎的知識を涵養できる。 |

| 事前受講を推奨する科目 | | |
|---|---|---|
| | | |

| 教科書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『長濱…特に指定しない』 | | | |
| | 『はじめて学ぶミクロ経済学・マクロ経済学』 | 池田 剛士、土橋 俊寛（編集）, 岡田 | 税務経理協会 | 2023年 |
| | | | | |

| 参考書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『授業内で随時紹介する』 | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | 本講義の資料や講義の案内はGoogle classroomを通じて行う。なお２名の教員が担当するため、学期の途中でClassroomの切り替えなどが発生する可能性がある。またシラバスの授業内容が変更される場合もある。その場合は授業中に説明する。 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンスおよび経済学の基本的な思考法 | 経済学がどのような思考法を好むのか、それを学ぶことにどんな意味があるのかを考える。 |
| 2 | 経済学の問題関心① | 経済学がどのような問題関心(分配・価値)を持ってきたかを、主要な経済学者の所説を整理しつつ考える。 |
| 3 | 経済学の問題関心② | 経済学がどのような問題関心(生存・企業)を持ってきたかを、主要な経済学者の所説を整理しつつ考える。 |
| 4 | 戦後世界経済史① | 戦後から1970年代までの先進国経済を中心に取り扱う。現在の経済社会を学んでいく基礎知識を獲得する。 |
| 5 | 戦後世界経済史② | 戦後から1970年代までの途上国経済・社会主義諸国の歩みを考察する。 |
| 6 | 戦後世界経済史③ | 1980年代以降のグローバル化現象について考える。 |
| 7 | 戦後日本経済史① | 戦後から高度成長期の日本経済について検討する。 |
| 8 | 戦後日本経済史② | 1980年代以降の安定成長期の日本経済について検討する。 |
| 9 | 戦後日本経済史③ | バブル崩壊後の日本経済について検討する。 |
| 10 | 中間試験 | ここまでの内容について試験を実施する。 |
| 11 | ミクロ経済入門① | 経済学の考え方について学ぶ。経済の需要・供給について考える。 |
| 12 | ミクロ経済入門② | 比較優位・貿易について考える。 |
| 13 | マクロ経済入門① | GDPについて考える。マクロ経済学の基礎は何か考える。 |
| 14 | マクロ経済入門② | 雇用など景気を反映した様々な指標について考える。 |
| 15 | マクロ経済入門③ | 経済成長とは何かについて。歴史的な枠組みも考慮しつつ簡単に考える。 |

| 授業科目名 | 経済数学　1組 | 担当教員名 | 野津　隆臣 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 春学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 1年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本科目では「経済学に必要な数学」を学ぶ。経済学の授業を理解するため、あるいは経済学の文献を独力で読み進めるために知っておくとよい数学のあれこれ（定理や公式を含む）を学ぶ。<br>中高の数学の復習を交えながら進める。中高の数学の復習は、数学好きにとっては物足りなく感じるかもしれない。しかし、「定義の理解」や「定理や公式の導出方法の理解」、そしてそれらの数学をどのように経済学に応用するかを併せて学ぶことで、数学好きにとっても楽しんで学習を進められる授業構成としたい。 |
| 到達目標 | 経済学部の経済学科目の授業内容を理解するために必要な数学を理解する。<br>・1次関数のグラフを描くことができて、連立方程式の解との対応を直観的に理解できる。<br>・指数や対数が経済学でどのように用いられるか理解し、それらの計算ができる。<br>・微分の計算をできる。<br>・微分を用いて経済学の最適化問題を解ける。 |

**評価の方法と基準**

| 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 平常点 | 30 | 授業時間に練習問題を行う |
| 小テスト | | |
| レポート | | |
| 定期試験 | 70 | 定期試験は講義内容の理解を問う問題を出題する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 毎回の授業の復習として、4時間以上をかけて、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し、内容を検討すること。それをふまえて練習問題（授業中に指示される）などを解くこと。 |

| | | |
|---|---|---|
| 事前受講を推奨する科目 | | |
| | | |

**教科書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| | 教科書は使用しない | | |
| | | | |
| | | | |

**参考書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | 教科書は指定せず講義スライドを用いて授業を進める。掘り下げて勉強したい人に対して、おすすめの参考書等を別途教示する。 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | イントロダクション | 事前準備として、授業で必須となる基本的な計算について確認する |
| 2 | グラフの読み方 | 需要と供給のグラフを用いてグラフの読み方を学ぶ |
| 3 | 1次関数 | 1次関数と1次関数のグラフを学ぶ |
| 4 | 連立方程式 | 直線の交点と連立方程式の解が一致することを学ぶ |
| 5 | 指数法則 | 指数法則を理解する |
| 6 | 対数法則 | 対数法則を理解する |
| 7 | 単利と複利 | 指数法則、対数法則を復習し、複利計算をする |
| 8 | 投資・貯蓄 | 指数法則、対数法則を復習し、貯蓄・投資の考え方を学ぶ |
| 9 | 数列 | 数列について学び、貯蓄・投資の考え方を学ぶ |
| 10 | 微分の定義 | 微分の定義を学び、定義に従って微分をする |
| 11 | 微分の計算 | 微分の意味を知り、べき関数を微分できるようになる |
| 12 | 最適化問題（1） | 微分をつかって効用最大化問題などを解く |
| 13 | 最適化問題（2） | 微分をつかって効用最大化問題などを解く |
| 14 | 微分の計算の応用 | 微分計算をする際に便利な公式を理解する |
| 15 | 全体のまとめ | 全体のまとめを行う |

| 授業科目名 | 日本経済論　1組 | 担当教員名 | 川波　洋一 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 春学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 1年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本講義は、主として戦後の日本経済の変遷をたどりながら、わが国経済が抱えている問題、政策的な特徴、世界経済におけるポジション、これからの日本経済について考える。大学に入学して最初に聴く講義であるという点に鑑み、できるだけ経済学への誘いとなるように平易に講義を進める。その際、物価、インフレ・デフレ、景気循環、不況や好況、経済成長、財政政策や金融政策などの経済政策、雇用や社会保障、産業構造や日本型経営、アジア経済や世界経済との関連、日本経済の未来など、基本的な問題についての知識が深められるようになることが目標である。経済学においては、専門的な用語を使うことがあるが、じっさいはわれわれの身の回りで起こっている身近な問題であることを実感してほしい。そうすることによって、受講者は、日本や世界で現実に生起するさまざまな経済問題に対する関心を持つようになることが大切である。受講者には、日本や世界で起こっている経済現象に目を向ける意味で、日々新聞に目を通すこととを薦めたい。 |
| 到達目標 | 本講義の到達目標<br>・新聞や雑誌等の媒体を通じて経済現象を観察し、関心を持てるようになること。<br>・経済学の用語に慣れ、日常的な学習において使えるようになること。<br>・大戦後の日本経済の大まかな流れと現時点において日本経済が抱える問題を把握すること。<br>・世界経済のなかでの日本経済の位置付けや他の国々との関係について説明できるようになる。<br>・日本経済の将来について展望を持ち、他の人に語れるようになること。 |

| 評価の方法と基準 | 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|---|
| | 平常点 | | |
| | 小テスト | | |
| | レポート | | |
| | 定期試験 | 100 | 講義の内容に関する問題について記述式にて解答。 |
| | その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 指定するテキスト参考書について事前に目を通し、予習をしておくこと。授業の資料については、事前にアップするので、目を通しておくこと。また、日々起こっている経済現象に関心を持つためには、『日本経済新聞』をはじめとする新聞や雑誌（エコノミスト誌や週刊東洋経済など）に目を通し、経済現象の観察をすること。経済学を学ぶものは、日々生起する経済現象を観察する態度を身につけることが大切である。 |

| 事前受講を推奨する科目 | | |
|---|---|---|
| | 経済学入門 | |
| | | |

| 教科書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『現代日本経済』 | 橋本寿朗他著 | 有斐閣 | 2019年 |
| | | | | |
| | | | | |

| 参考書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『現代日本金融論(新版）第II部』 | 川波洋一・上川孝夫編著 | 有斐閣 | 2016年 |
| | 『最新日本経済入門（第６版）』 | 小峰隆夫・村田啓子著 | 日本評論社 | 2020年 |
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | 日本経済論では何を学ぶのか？ | 1．経済学って何だろうか？<br>2．日本経済論ではどのようなことを学ぶのか？<br>3．日本経済論を学ぶことの大切さ<br>4．今日のまとめ |
| 2 | 現代の日本経済を見る目 | 1．現代の日本経済を見る目を養う<br>2．どのような観点から日本経済を見るのか？<br>3．日本経済の現状<br>4．今日のまとめ |
| 3 | 戦後の日本経済の歩み | 1．戦後日本経済の枠組み<br>2．日本の経済復興<br>3．ドッジラインと市場経済への移行<br>4．今日のまとめ |
| 4 | 日本の高度経済成長 | 1．日本の高度経済成長ーどのようにして豊かになったのか？<br>2．産業構造の高度化<br>3．様々な産業政策の導入<br>4．今日のまとめ |
| 5 | 成長を支えた仕組み | 1．成長を支えた仕組みはどのようなものであったか？<br>2．労働<br>3．資本<br>4．技術 |
| 6 | 日本経済の転機 | 1．日本経済の転機ー二つのショックー<br>2．石油危機とスタグフレーション<br>3．安定成長への移行<br>4．今日のまとめ |
| 7 | 赤字国債の発行と日本企業の国際競争力 | 1．赤字国債の発行<br>2．増税論と行財政改革<br>3．日本企業の国際競争力<br>4．今日のまとめ |
| 8 | バブルの形成と崩壊 | 1．アメリカ経済との関係<br>2．バブルの形成<br>3．資産価格の下落と実体経済の縮小<br>4．今日のまとめ |
| 9 | グローバル化のなかの日本経済 | 1．債権大国への道<br>2．金融自由化と金融ビッグバン<br>3．日本的システムの確立<br>4．今日のまとめ |
| 10 | 長期停滞のなかの日本経済 | 1．失われた30年への道<br>2．デフレの深刻化<br>3．財政赤字の深刻化．<br>4．今日のまとめ |
| 11 | 日本企業の海外進出 | 1．プラザ合意<br>2．海外直接投資と新興経済圏の経済成長<br>3．アジア経済と日本経済<br>4．今日のまとめ |
| 12 | 日本型システムの転換 | 1．企業システムの転換<br>2．メインバンクシステム<br>3．雇用システムの変容<br>4．今日のまとめ |
| 13 | アベノミクスの実験 | 1．３本の矢とアベノミクス<br>2．ゼロ金利から量的金融緩和政策政策へ<br>3．成長戦略の意味<br>4．今日のまとめ |
| 14 | グローバル経済の変曲点と日本経済 | 1．アベノミクスの成果と次代に必要なもの<br>2．成長と分配の好循環<br>3．アベノミクスの転機<br>4．今日のまとめ |
| 15 | 日本経済の未来 | 1　低い成長率<br>2．日本が抱える構造的問題<br>3．日本経済に未来はあるか？<br>4．今日のまとめ |

| 授業科目名 | 商学総論 | 担当教員名 | 柳　純 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 春学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 1年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本講義は初年次における商学を理解するために設けられています。生産と消費の諸活動をつなぐ重要な役割を果たしているのが流通であり、その主体となるのが卸売業、小売業を中心とした商業になります。本講義では商業の意義や役割、現代の商品流通の仕組みについて説明していきますが、近年、商業を取り巻く環境も劇的に変化していることを鑑みて、具体的な事例を盛り込みながら講義を進めていきます。講義前半部分では、商業の生成、商業構造を知るとともに流通機能についても理解を深めながら小売業態の変遷を分析・検討します。そして、後半部分では商店街やショッピングセンターである商業集積、さらには無店舗販売における知識を深め、今日の商業が国際化している点やその展開について紹介していきます。 |
| 到達目標 | ①商学に関する基礎知識を習得し、専門用語について理解することができる。<br>②商業が担う役割や商業存立の意義について説明することができる。<br>③商品流通に関する興味や関心をもつことができる。 |

**評価の方法と基準**

| 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 平常点 | | |
| 小テスト | | |
| レポート | | |
| 定期試験 | 80 | 定期試験期間中に実施します |
| その他 | 20 | 課題の提出状況で評価します |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 事前学習として、下記のテキスト、参考書をはじめとし商学や商業に関する専門書を事前に熟読すること。<br>事後学習は、毎回配布する資料の内容を再度確認し、専門用語やポイント等を各自で整理しておくこと。 |

| | | |
|---|---|---|
| 事前受講を推奨する科目 | | |
| | | |

**教科書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『[改訂版]流通と商業の基礎理論』 | 岩永忠康ほか | 五絃舎 | 2024年 |
| | | | |
| | | | |

**参考書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『新・流通と商業（第6版）』 | 鈴木安昭 | 有斐閣 | 2016年 |
| 『商学への招待』 | 石原武政・忽那憲治編 | 有斐閣 | 2013年 |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | （1）授業形態：対面授業<br>（2）授業資料の配信方法：Google Classroom（配布資料をアップロードします）<br>（3）授業資料の配信スケジュール：毎週火曜日18時まで<br>（4）質疑応答、意見交換の方法：講義終了後またはメールで実施 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | 講義ガイダンス | 講義概要、成績評価・方法などを説明する。 |
| 2 | 商業の基礎概念（1） | 商学を取り巻く学問領域および商学と商業学の体系について解説する。 |
| 3 | 商業の基礎概念（2） | 商業の生成と商業機能および商業の概念について解説する。 |
| 4 | 流通機構 | 商品流通の態様や商業の役割および商品流通のタイプについて解説する。 |
| 5 | 日本の流通システム | 日本の流通システムおよび取引慣行について解説する。 |
| 6 | 卸売業（1） | 卸売業の位置づけやその機能や特性について解説する。 |
| 7 | 卸売業（2） | 卸売業の経営およびリテールサポートについて解説する。 |
| 8 | 小売業（1） | 百貨店の生成とその展開について検討しながら解説する。 |
| 9 | 小売業（2） | 専門スーパーマーケットと総合スーパーマーケットに関して解説する。 |
| 10 | 小売業（3） | コンビニエンス・ストアに実態把握と可能性について解説する。 |
| 11 | 小売業（4） | その他の業態（ディスカウントストア、製造小売等）に関して解説する。 |
| 12 | 商店街とショッピングセンター | 伝統的な商業集積（商店街）と計画的な商業集積（ショッピングセンター）について解説する。 |
| 13 | 無店舗販売（1） | 無店舗販売の実態や商取引の電子化に関して解説する。 |
| 14 | 無店舗販売（2） | 無店舗販売における事例研究の紹介をします。 |
| 15 | 商業の国際化 | 商業の国際展開と外資参入とその事例研究。 |

| 授業科目名 | 経営学入門 | 担当教員名 | 西田　郁子 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 春学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 1年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本講義では企業とは何か、経営学とは何か、われわれの社会や生活にどのように関係しているのかを考えます。人間は一人では大きな仕事はできません。そのため組織といういうものが生まれます。その組織はどんな原理で運営されたときに効率的で、社会的に有益なものになりやすいのかを議論するのが経営学です。<br>「経営学」と聞いてみなさんは「経営者のための学問」、「お金儲けの学問」を連想するかもしれません。そのような側面もあるかもしれませんが、それだけではありません。経営学を学ぶことは世の中をより良きものとする術を会得することでもあります。マネジメント能力はどのような職業に就くにしても必要です。 |
| 到達目標 | ・経営学の入門的な知識についてその内容を理解する。<br>・企業の諸問題について関心を持つ。<br>・サークルなど身近な組織の運営の諸問題に関心を持つ。 |

| 評価の方法と基準 | 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|---|
| | 平常点 | 30 | 課題等の提出状況で評価します |
| | 小テスト | | |
| | レポート | | |
| | 定期試験 | 70 | |
| | その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 事前学習として、下記のテキストの該当箇所を事前に熟読すること。<br>事後学習は、配布資料を再度確認し、専門用語やポイント等を各自で整理しておくこと。 |

| 事前受講を推奨する科目 | | |
|---|---|---|
| | | |

| 教科書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『現代の企業経営』 | 西田 安慶・林純子 | 三学出版 | 2021年 |
| | | | | |
| | | | | |

| 参考書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『ゼミナール経営学入門　第3版』 | 伊丹敬之・加護野忠男 | 日本経済新聞出版社 | 2018年 |
| | 『1からの経営学<第3版>』 | 加護野忠男・吉村典久 | 碩学舎 | 2021年 |
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 経営学の全体像 |
| 2 | 現代企業とその社会的役割 | さまざまな企業形態と株式会社の基本的な仕組み |
| 3 | コーポレート・ガバナンス | 今日の企業統治の課題 |
| 4 | 経営戦略（1） | 経営理念と戦略 |
| 5 | 経営戦略（2） | 競争戦略のマネジメント |
| 6 | 経営戦略（3） | 多角化戦略のマネジメント |
| 7 | 経営組織（1） | 基本的な組織構造の枠組みと特徴 |
| 8 | 経営組織　（2） | 基本的な組織構造の枠組みと特徴　ブレークスルーを生み出すためのさまざまな仕組み |
| 9 | 経営組織　（3） | やる気(動機づけ)の重要性　インセンティブ・システム　リーダーシップ |
| 10 | 経営組織　（4） | 情報や知識のマネジメント |
| 11 | マーケティング | マーケティングの基本概念 |
| 12 | 生産管理 | 企業はどのようにしてモノをつくるのか |
| 13 | 国際経営 | 国境を超えて展開される企業活動のマネジメント |
| 14 | デジタル経営 | 進化したICT（通信情報技術）を活用して、良いことを上手に実現する方法 |
| 15 | 財務管理 | 企業はどのように資金を調達し運用するのか |

| 授業科目名 | ミクロ経済学Ⅰ（公） | 担当教員名 | 野津　隆臣 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 秋学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 1年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 　ミクロ経済学の基礎的な知識や考え方を学ぶ。ミクロ経済学には幅広いテーマがあるが、本講義では市場の理論を中心に学ぶ。消費者行動、企業行動、市場均衡といったトピックスを紹介し解説を行う。また、理論を応用して経済政策について考える。<br>　講義ではグラフを用いて解説するため、高校数学の関数とグラフについて復習しておくこと。<br>　ミクロ経済学の対象は広く、15回の授業で網羅することができない。そこで上記内容と併せて、担当教員が専門的に勉強している領域を紹介することで補足したい。 |
| 到達目標 | 事例や図解を通じて以下の点を理解することを目標とする。<br>①ミクロ経済学の用語を理解する。<br>②関連した図の解釈や曲線などの移動の条件がわかるようになる。<br>③ミクロ経済学の知識を用いて、現実事象の説明ができるようになる。 |

**評価の方法と基準**

| 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 平常点 | 30 | ミニットペーパー |
| 小テスト | | |
| レポート | | |
| 定期試験 | 70 | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 事前学習：講義資料を活用し、講義内容を把握してくるようにすること。<br>事後学習：①講義中の解説について内容をまとめる、②グラフの解説は文章化しておく、③計算例は計算過程を復習すること、④講義中に問いかけを提示するのでそれを考える。 |

| | | |
|---|---|---|
| 事前受講を推奨する科目 | 新聞や経済雑誌を読み、経済に触れておくことを推奨する。 | |
| | | |

**教科書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| | 教科書は使用しない | | |
| | | | |
| | | | |

**参考書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門　ミクロ編』 | ティモシー・テイラー | かんき出版 | 2013 |
| | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | 教科書は指定せず、授業は講義スライドを用いて進める |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | イントロダクション | ミクロ経済学はどのような学問か知る |
| 2 | 需要と供給 | 市場、需要及び供給の概念を理解する |
| 3 | 消費者行動（1） | 需要の法則について知る |
| 4 | 消費者行動（2） | 消費者の意思決定について考える |
| 5 | 消費者行動（3） | 第3回の需要の法則と消費者の意思決定について考える |
| 6 | 価格弾力性 | 需要曲線の特徴を学ぶ。価格弾力性の考え方を説明できるようになる。 |
| 7 | 生産者行動（1） | 供給の法則について知る |
| 8 | 生産者行動（2） | 生産要素、費用について考える |
| 9 | 生産者行動（3） | 供給曲線について学ぶ |
| 10 | 市場均衡（1） | 市場均衡の概念を理解する |
| 11 | 市場均衡（2） | 超過需要、超過供給からの均衡までの調整過程について学ぶ |
| 12 | 価格統制と規制 | 経済政策のひとつである価格の上限規制や、市場への規制の影響について考える |
| 13 | 市場の失敗（1） | 外部性の概念を理解する |
| 14 | 市場の失敗（2） | 公共財の概念を理解する |
| 15 | まとめ | これまでの学習内容のまとめと補足を行う |

| 授業科目名 | マクロ経済学Ⅰ（公） | 担当教員名 | 磯谷　明徳 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 秋学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 1年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 　マクロ経済学は、経済を巨視的にとらえ、経済全体の性質について考えようとする経済学の分野である。マクロ経済学は、景気、雇用、物価、通貨、為替など、経済全体に関わる問題を対象にする。本講義では、マクロ経済学の基本的な概念や考え方を理解することに主眼を置き、「なぜマクロ経済学は必要か」から始めて、一つのストーリーとしてマクロ経済学という学問を理解できるような形で講義する。<br>　なお、この「マクロ経済学Ⅰ」では、マクロ経済学という学問全体の6割程度の内容が講義される。残りの4割程度については、「マクロ経済学Ⅱ（2年次春学期）で講義されるのを注意して欲しい。<br><br>上で記述のように、マクロ経済学Ⅱは２年次春学期に開講される。マクロ経済学Ⅰに続いて、マクロ経済学Ⅱを連続して履修することを強く推奨する。 |
| 到達目標 | ・　マクロ経済学の基本的な概念を理解する。<br>・　現実のマクロ経済の動向をマクロ経済学の基礎的な知識と考え方を用いて理解することに関心を持てるようになり、今後のより専門的な経済学の学習の基礎的な素養を習得することを目標とする。<br>・　マクロ経済学の基礎知識を身につけることで、日ごろ見聞きする経済ニュースに直結する経済現象や政策について、自分なりの判断や評価ができるようになる。 |

| 評価の方法と基準 | 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|---|
| | 平常点 | 30 | ミニッツペーパーの提出 |
| | 小テスト | 20 | 理解度確認テスト。複数回実施予定 |
| | レポート | | |
| | 定期試験 | 50 | 期末試験 |
| | その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 事前学習として、前回の講義内容を復習しておくこと。毎回の講義に対して、ミニッツペーパーの提出が必須なので、講義内容への疑問点などを事後学習として整理すること。 |

| 事前受講を推奨する科目 | | |
|---|---|---|
| | | |

| 教科書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『教科書は使用しない。』 | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| 参考書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | 小テストを複数回行う予定である。小テストの実施と合わせて、解答とその解説を行うので、講義スケジュールに変更が生じる場合がある。このことを予め了解願いたい。 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | 授業ガイダンス | 講義の進め方、成績評価の方法・基準などについて説明する。 |
| 2 | なぜマクロ経済学は必要か① | ミクロ経済学とは別個に、なぜマクロ経済学という学問分野が存在するのかについて説明する。 |
| 3 | なぜマクロ経済学は必要か② | 第2回講義の続き |
| 4 | 国民所得の測定 | GDPとは何かなど、国民所得統計について説明する。 |
| 5 | 国民所得の決定①-1 | 消費関数と45度線分析（前編） |
| 6 | 国民所得の決定①-2 | 消費関数と45度線分析（後編） |
| 7 | 国民所得の決定②-1 | 45度線分析とマクロ経済政策の基礎（前編） |
| 8 | 国民所得の決定②-2 | 45度線分析とマクロ経済政策の基礎（後編） |
| 9 | 国民所得の決定③-1 | 乗数理論（前編） |
| 10 | 国民所得の決定③-2 | 乗数理論（後編） |
| 11 | 国民所得の決定④-1 | 投資関数：投資と利子（前編） |
| 12 | 国民所得の決定④-2 | 投資関数：投資と利子（後編） |
| 13 | 国民所得の決定⑤-1 | 利子と貨幣（前編） |
| 14 | 国民所得の決定⑤-2 | 利子と貨幣（後編） |
| 15 | IS-LM分析 | ケインズ体系とIS-LM分析 |

| 授業科目名 | 経済原論Ⅰ（国・公） | 担当教員名 | 関野　秀明 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 秋学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 1年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 　この講義のねらいは、今、私たちが暮らしている社会の基本システムである「資本主義」が私たちを取り巻くさまざまな人間関係にいかなる肯定的、否定的影響を与えてきたかについて理論的に考えることです。なぜ人間が作り出した「貨幣」が人間を支配するようになったのか、なぜ人類史上空前の豊かな生産力を実現した「資本主義」が戦争も貧困も解決できないのか、なぜ中高年のリストラ・失業、若者の就職難と働きすぎ・過労死といった問題が同時におこるのか、といった現実のシビアな問題に取り組んで欲しいのです。 |
| 到達目標 | ①貨幣のもつ魔力の科学的根拠を理解する<br>②剰余価値・利潤が働く人からの搾取で成り立つことを理解する<br>③成果主義賃金が「頑張るほど奪われる賃金制度」であることを理解する<br>④資本の蓄積と貧困の蓄積は表裏一体であることを理解する<br>⑤利潤のための経済が過剰な生産と制限された消費を生み停滞に至ることを理解する |

| 評価の方法と基準 | 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|---|
| | 平常点 | | |
| | 小テスト | | |
| | レポート | | |
| | 定期試験 | 100 | |
| | その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 毎回の授業は当日配布する「講義レジュメ」を用いる。そのうえで、月刊『経済』編集部編『変革の時代と資本論‐マルクスのすすめー』、とくに第7章、関野秀明「マルクスの剰余価値理論」を読むことは、予習、復習、両方に役立つ。 |

| 事前受講を推奨する科目 | | |
|---|---|---|
| | 経済学入門 | |
| | | |

| 教科書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『教科書は使用しない』 | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| 参考書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『新版資本論』 | カール・マルクス | 新日本出版社 | 2020年 |
| | 『変革の時代と資本論』 | 月刊経済編集部編 | 新日本出版社 | 2017年 |
| | 『経済学辞典』 | | 大月書店 | |

| | |
|---|---|
| 備考 | 対面授業、対面定期試験を予定している。 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | 資本論の経済学とは何か | 歴史研究、法則性研究、発生論的・弁証法的方法、階級性 |
| 2 | 商品論1 | 商品と労働の二重性 |
| 3 | 商品論2 | 価値形態論 |
| 4 | 商品論3 | 物神性論 |
| 5 | 商品論4　貨幣論1 | 交換過程論　貨幣の価値尺度 |
| 6 | 貨幣論2 | 流通手段　蓄蔵貨幣　支払手段　世界貨幣 |
| 7 | 剰余価値論1 | 貨幣の資本への転化 |
| 8 | 剰余価値論2 | 生産過程　絶対的剰余価値論 |
| 9 | 剰余価値論3 | 相対的剰余価値・特別剰余価値論 |
| 10 | 賃金論1 | 労働の価値と労働力の価値 |
| 11 | 賃金論2 | 時間賃金制度 |
| 12 | 賃金論3 | 出来高賃金制度 |
| 13 | 資本蓄積論1 | 所有法則の転換 |
| 14 | 資本蓄積論2 | 相対的過剰人口 |
| 15 | 資本蓄積論3 | 資本と貧困の蓄積　資本主義の歴史的傾向 |

| 授業科目名 | 簿記原理Ⅰ（公・経） | 担当教員名 | 足立　俊輔 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 秋学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 1年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 企業は利益をあげるために様々な活動を行っていますが、そうした様々な企業活動を測定・評価するのが簿記・会計です。具体的には、「複式簿記」と呼ばれるものを用いて企業活動は仕訳され、仕訳された企業活動は貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に記載され一般に公開されています。本科目では、こうした複式簿記を用いて作成される財務諸表の基本構造が理解できるように講義を進めていきます。<br>講義の前半ではプリントを配布し、それに沿った講義を行ないます。また、講義の後半では、問題を解く時間を設定し、実際に手を動かしながら理解を深めるようにしています。 |
| 到達目標 | 本科目の到達目標は、日商簿記検定３級程度の知識・計算能力を身につけることです。具体的には、①複式簿記の基本構造が理解できること、②単純な企業活動を仕訳する能力を身につけること、③仕訳された企業活動を損益計算書、貸借対照表に記入できることを目標にしています。 |

| 評価の方法と基準 | 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|---|
| | 平常点 | 15 | |
| | 小テスト | | |
| | レポート | 10 | |
| | 定期試験 | 75 | |
| | その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | ※　テキストはいずれも最新版を購入すること。<br>※　講義には大きめの電卓を購入の上で望むこと。 |

| 事前受講を推奨する科目 | | |
|---|---|---|
| | | |
| | | |

| 教科書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級 商業簿記』 | 滝澤ななみ | TAC出版 | 最新版 |
| | | | | |
| | | | | |

| 参考書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | ①「授業形態」:対面授業<br>②「授業実施の手段」：対面授業（＋Google classroomにはプリントPDFのみ後日掲載予定）<br>③「質疑応答意見交換の方法」：対面授業<br>④「コンテンツ配信日時」：対面授業後に配信予定<br>⑤「受講したとみなす条件」：<br>対面授業でのレポート提出が基本 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | 資産・負債・純資産(資本)と貸借対照表 | 簿記の意味・目的・種類、<br>簿記の基礎概念 |
| 2 | 収益・費用と損益計算書 | 簿記の基礎概念 |
| 3 | 取引と仕訳 | 取引、勘定と仕訳 |
| 4 | 試算表の作成（1） | 決算と財務諸表（その1） |
| 5 | 現預金 | 現金預金取引 |
| 6 | 商品売買 | 発送費、返品 |
| 7 | 売掛金・買掛金 | 売掛金と買掛金、クレジット売掛金 |
| 8 | その他の債権・債務 | 未払金・未収入金・前払金・前受金など |
| 9 | 手形－振出・受入・引受・取立・支払 | 受取手形・支払手形、電子記録債権・債務 |
| 10 | 固定資産 | 取得原価、減価償却 |
| 11 | 税金 | 消費税・法定福利費・預り金 |
| 12 | 収益と費用、<br>試算表の作成（2） | 収益と費用、決算と財務諸表（その2） |
| 13 | 元帳の締切りと財務諸表の作成 | 決算と財務諸表（その2） |
| 14 | 総合問題（1） | まとめ（試算表を作成する問題をあつかいます。） |
| 15 | 総合問題（2） | まとめ（精算表を作成する問題をあつかいます。） |

| 授業科目名 | 現代政治学 | 担当教員名 | 水谷　利亮 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 秋学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 1年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 【現代社会における政治・行政の役割・機能について学ぼう！】<br>わが国の政治・行政においては、政治の説明責任の欠如と機能不全や、官僚制の弊害、政官財学報の癒着などの問題が顕著になっている。この授業では、現代政治に焦点をあてながら、私たちの生活と密接に関連する政治・行政の機能・役割や課題、制度のあり方などに関する基本的な知識と視点を学生が学びながら、主権者・市民として政治や「政府」のあり方を批判的に考えるための素材と機会を提供することを目的とする。<br>授業では、「政治にまつわる世間一般の俗説・神話を破壊し、政治を分析する際の視座を提示」し、「政治学のおもしろさを伝える」教科書を使って、講義形式で進める。補足資料を配布することがある。質問は、授業中に応答すること等で対応する。 |
| 到達目標 | ①現代日本の政治や行政（活動）について理解を深める。<br>②有権者、あるいは主権者・市民として、私たちはどのように政治に関わることができるのかを意識して政治のあり方を考える視点を獲得する。<br>③「小さな政府」や新自由主義にもとづく政治を含め民主政治のあり方について、分析的・批判的に理解するための基本的な知識と視点を学ぶ。 |

**評価の方法と基準**

| 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 平常点 | | |
| 小テスト | | |
| レポート | | |
| 定期試験 | 100 | キーワードの確認などを含む記述式の試験 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 日頃から新聞やニュースは毎日みておくこと。<br>授業は基本的にテキストの章立てに沿って進めるので、予め次回の授業内容を必ず1回は読んで予習し、事後に該当する章を読み直して復習すること。 |

| | | |
|---|---|---|
| 事前受講を推奨する科目 | | |
| | | |

**教科書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『ポリティカル・サイエンス入門』 | 坂本治也・ 石橋章市朗編 | 法律文化社 | 2020年 |
| | | | |
| | | | |

**参考書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『はじめて出会う政治学　第3版－構造改革の向こうに』 | 北山俊哉、真渕勝、久米郁男 | 有斐閣 | 2010年 |
| | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | ①授業形態：対面授業。<br>②コンテンツ配信：レジュメや関連資料などはgoogle classroom（gc）に前日までに掲示。<br>③テキストは生協などで購入し、授業前後に読んで理解を深めること。<br>④gcには、ecoメールに招待を送るので参加手続きをして入る。<br>なお、必要に応じて授業内容を周知して変更する場合もある。また、教科書は2022年に改訂され第2版として出版された新しい教科書を使う。 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | 授業ガイダンス | オリエンテーション |
| 2 | 民主政治① | 第1章　政治とは何かー政治学って学ぶ意味あるの？ |
| 3 | 民主政治② | 第2章 国際政治ー戦争はなぜ起きる？ |
| 4 | 民主政治③ | 第3 章 戦後日本政治の歴史―戦後ってどんな時代？ |
| 5 | 民主政治④ | 第4章 政治参加ーなぜ私たちは参加したくないのか？ |
| 6 | 民主政治⑤ | 第5章 投票行動ーどうやって代理人を選ぶのか？ |
| 7 | 民主政治⑥ | 第6章 利益団体ー利益を主張するってどういうこと？ |
| 8 | 民主政治⑦ | 第7章 メディアー私たちはメディアに踊らされる？ |
| 9 | 民主政治⑧ | 第8章　議員・政党ー政党って何のためにあるの？ |
| 10 | 民主政治⑨ | 第9章　立法過程ーどのように法律はつくられるのか？ |
| 11 | 民主政治⑩ | 第10章　執政部ー日本の首相って強いの？ |
| 12 | 民主政治⑪ | 第11章 行政官僚制ー誰が社会を支えているのか？ |
| 13 | 民主政治⑫ | 第12章　地方自治ー近所の役所は国の政府とどう違うの？ |
| 14 | 民主政治⑬ | おわりにーポリティカル・サイエンスの視点から |
| 15 | まとめ | 全体のまとめ |

| 授業科目名 | 公共マネジメント特講Ⅰ＜公共マネジメント実習Ⅰ＞ | 担当教員名 | 小村　有紀 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 秋学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 1年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | この授業は、2年次配当の公共マネジメント特講Ⅱの基礎として、地域における課題の発見・調査・分析の基礎的な知識と技法を習得することを目的とする。また、行政実務者等による講義や実践的な演習を通じて、地域政策の立案に必要な視点を養う。 |
| 到達目標 | 地方行財政の制度や仕組みについて基本的な事項を理解し、説明する力を身につける。また、社会調査の基本的な手法としてインタビュー調査や質問紙調査の概要を理解する。さらに、収集したデータの分析方法を理解し、基礎的な分析方法を知る。これらの学習を通じて、地域課題について様々な立場の視点を踏まえて検討し、解決策を提案する力を養成する。 |

**評価の方法と基準**

| 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 平常点 | 50 | |
| 小テスト | | |
| レポート | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | ディスカッションの発表など |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 授業の後は、新聞やテレビのニュースなどについて授業で学んだことを結びつけて考えること。 |

| | | |
|---|---|---|
| 事前受講を推奨する科目 | | |
| | | |

**教科書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『必要に応じて講義内で指示します』 | | | |
| | | | |
| | | | |

**参考書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『必要に応じて講義内で指示します』 | | | |
| | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | この授業は、行政機関等での実務経験のある教員が行う授業です。<br>講義の進捗状況により、授業計画を変更することがあることをご了承ください。 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 講義の進め方や評価方法などについて説明する。 |
| 2 | 地方行財政の仕組み | 地方行財政の基本的事項について説明する。 |
| 3 | 市政の現状と展望 | 下関市の現状や今後の取組について、下関市の行政担当者からお話しいただく。 |
| 4 | 地方行財政の仕組み | 地方行財政の基本的事項について説明する。 |
| 5 | グループディスカッション | グループディスカッションの基本的事項について説明する。 |
| 6 | 社会調査 | フィールドワークの基本的事項について説明する。 |
| 7 | 行政実務 | 下関市の産業振興政策について、下関市の実務者からお話しいただく。 |
| 8 | 社会調査 | インタビュー調査の実施方法と留意点について説明する。 |
| 9 | 社会調査 | 質問紙調査の実施方法と留意点について説明する |
| 10 | 行政実務 | 山口県の広報について、行政関係者からお話しいただく。 |
| 11 | 社会調査 | 調査結果の分析方法について説明する |
| 12 | 行政広報 | 行政広報の理論や分類について説明する。 |
| 13 | 行政実務 | 山口県の文化振興について、行政関係者からお話しいただく。 |
| 14 | ディスカッション | あるテーマを設定し、その課題と解決策について議論する。 |
| 15 | ディスカッション | あるテーマを設定し、その課題と解決策について議論する。 |

| 授業科目名 | 憲法＜憲法Ⅱ＞ | 担当教員名 | 赤城　浩志 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 春学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 2年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 「憲法」という文字から何を連想するだろうか。現代日本では、憲法についての議論は様々な場所で見かけることができ、実際にそのような議論に参加したことがあるという人もいるだろう。しかし、「『憲法』とは何か」と問われたとき、果たしてどのように答えるだろうか。「憲法」とは、最高法規であり、国家の活動はこの「憲法」に基づいて行われる。そして「憲法」とは、国家権力を制限し、国民の権利を保障するものである。これは日本国憲法についても同様である。いうなれば、日本国憲法とは現代日本を形作る大枠である。日本国憲法について理解を深めることは、ひいては日本という国家と社会についての理解を深めることにも繋がるだろう。<br>そこで本講義では、「人権規定」と「統治規定」で構成されている日本国憲法の中でも「人権規定」の分野を特に重点的に扱い、日本国憲法を概観する。この講義によって、日本という国家がどのように人権を保障しているのか、理解を深めてもらいたい。 |
| 到達目標 | 憲法が保障する権利について基礎的な知識を身につけることができる。<br>憲法に関わる現代社会の諸問題について関心を抱き、自己の見解を持ち、かつそれを表現できる。 |

| 評価の方法と基準 | 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|---|
| | 平常点 | | |
| | 小テスト | | |
| | レポート | | |
| | 定期試験 | 100 | シラバス記載の到達目標に沿って判断する。 |
| | その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 講義前講義後に教科書の該当範囲、及び配布資料を読むこと。<br>事前事後学習として、週4時間ほど確保すること。 |

| 事前受講を推奨する科目 | | |
|---|---|---|
| | | |

| 教科書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『図録　日本国憲法　第2版』 | 斎藤一久・堀口悟郎編 | 弘文堂 | 2021年 |
| | | | | |
| | | | | |

| 参考書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『憲法の時間　第2版』 | 井上典之編 | 有斐閣 | 2022年 |
| | | | | |
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | イントロダクション――憲法とは何か―― | 憲法とは何か、原則である立憲主義について解説する。 |
| 2 | 統治機構概論　――三権分立の仕組み―― | 三権分立と三権の役割について解説する。 |
| 3 | 日本憲法史 | 明治憲法とはどんな憲法だったか、日本国憲法がどのように制定されたかについて解説する。 |
| 4 | 平和主義 | 平和主義の概念について解説する。 |
| 5 | 人権の射程 | 権利の主体、外国人や法人、未成年の人権について解説する。 |
| 6 | 新しい人権 | 新しい人権とその根拠である幸福追求権について解説する。 |
| 7 | 法の下の平等 | 憲法14条の法の下の平等について解説する。 |
| 8 | 精神的自由権① | 思想・良心の自由と信教の自由について解説する。 |
| 9 | 精神的自由権② | 表現の自由が保障される理由について解説する。 |
| 10 | 精神的自由権③ | 表現の自由の保障の限界について解説する。 |
| 11 | 精神的自由権④ | 集会・結社の自由について解説する。 |
| 12 | 経済的自由権 | 職業選択の自由を始めとした経済活動に関する権利について解説する。 |
| 13 | 参政権と選挙制度 | 選挙制度とそれに関する権利について解説する。 |
| 14 | 社会権 | 生存権を始めとした社会権について解説する。 |
| 15 | 総括 | 講義全体のまとめを行う。 |

| 授業科目名 | 非営利組織論 | 担当教員名 | 川野　祐二 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 春学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 2年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 　この授業は、利益を目的とせず、しかも政府（行政）ではない組織、すなわち非営利組織（NPO）について学ぶ。それは公益法人や共益法人までを視野に入れた幅広い意味のNPOである。<br>　講義を通じて受講者は社会には多様な目的を持った非営利組織が存在し、常に衝突と共存を繰り返していることを学ぶ。また、非営利セクターの全体像を把握して、彼らが行ってきた社会サービスの広がりとNPOが持つ社会的使命について考察する。<br>　具体的には、NPOが活躍するに至った歴史的社会的背景を紹介し、近現代以降に起きた社会問題とその解決を目指して現れたNPOについて説明する。たしかに時代や社会状況に応じて、新たな価値観や公益目的が現れた。その都度、新たな目的を掲げて多くのNPOが誕生したが、その価値観や目的が異なるゆえにNPO同士も衝突する。民主主義における社会正義の実現は一見すると困難である。<br>　資本主義・民主主義のなかでNPOは、企業や行政とは異なる役割を担ってきた。その活躍の広さと問題点について熟慮する授業である。 |
| 到達目標 | 非営利組織（NPO）の定義と組織的特徴について解説できる。<br>NPOが流行した背景を解説できる。<br>NPOの全体像を説明できる。<br>公益性と非営利性について解説し、非営利組織の種類と形態を説明できる。<br>特定非営利活動法人の登場背景と公益法人制度改革の経緯について説明できる。<br>資本主義における非営利組織の存在意義および社会的役割について解説できる。<br>社会運動型のNPOと産業興隆型のNPOを説明できる。 |

| 評価の方法と基準 | 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|---|
| | 平常点 | | 授業中の発言等を加点対象とする場合がある。 |
| | 小テスト | | 受講者数によっては小テストを行う場合がある。 |
| | レポート | | 受講者数によっては小レポートを行う場合がある。 |
| | 定期試験 | 100 | 受講者数によっては平常点・小テスト・小レポートに点数配分することがある（最大20点程度）。 |
| | その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 事前・事後学習は、授業ノートを熟読。到達目標に書かれた内容を解説できるように準備。 |

| 事前受講を推奨する科目 | | |
|---|---|---|
| | | |

| 教科書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『教科書は使用しない』 | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| 参考書 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|---|
| | 『公益法人－隠された官の聖域』 | 北沢栄 | 岩波書店 | 2001年 |
| | 『非営利組織論』 | 田尾雅夫・吉田忠彦 | 有斐閣 | 2009年 |
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | 非営利組織入門 | 非営利組織とは何か。ボランティアとの関係。 |
| 2 | NGOとNPO | 用語の意味とその変遷。 |
| 3 | 日本の講と公益法人 | 近世までのNPO。歴史のなかの共益・公益組織。近代における公益活動。 |
| 4 | NGOの登場 | 国際的非営利組織の活躍。 |
| 5 | NGOへの注目 | 市民運動からNGOへ。 |
| 6 | NPOの登場 | 特定非営利活動法人の誕生。 |
| 7 | NPOの急増 | 非営利法人制度の改革と新しい公共。 |
| 8 | 非営利目的の組織を探す | 社会で活躍する非営利組織。非営利セクターの全体像と概念整理。戦後市民活動の変遷。 |
| 9 | 資本主義と環境NPO | 市場経済の調整機能。 |
| 10 | 資本主義と労働組合 | 古典的NPOの存在意義。 |
| 11 | 経済政策と福祉NPO | 大きな政府と福祉。 |
| 12 | エコロジー思想の背景 | エコロジー思想のインパクト。環境運動と消費者運動。 |
| 13 | エコロジー運動の実際 | 映像で見るDDT、PCBの危険性。環境系の運動。 |
| 14 | 社会運動 | 社会変革を目指した運動の歴史。 |
| 15 | 産業とNPO | 協同組合、非営利金融、業界団体、利益集団の活躍。 |

| 授業科目名 | 環境マネジメント | 担当教員名 | 菅　正史 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 春学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 2年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本講義では、環境政策の基本的な知識と考え方を学びます。あわせて、環境政策の事例を通じ、公共政策的な考え方への理解を深めます。(企業・団体の活動に伴う環境負荷を管理する「環境マネジメントシステム」と呼ばれる取組がありますが、それは本講義の主たる対象ではありません。)<br>講義の前半では、環境経済学の基礎を学びます。経済学から見た環境問題の発生要因、環境政策の手段の理論的な意味、環境の価値の評価法などを学びます。<br>後半は、主として日本の環境政策の考え方と課題について、発展論的に学びます。 |
| 到達目標 | ①環境経済学の基礎を理解する。<br>②環境政策に関する基本的な用語・概念を説明できるようになる。<br>③日本の環境政策の形成経緯を説明できるようになる。 |

評価の方法と基準

| 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 平常点 | 20 | 総合評点が70点未満となった場合に、70点を上限に考慮する。 |
| 小テスト | 20 | |
| レポート | | |
| 定期試験 | 80 | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 主に事後学習に力を入れてください。配布資料やノート・メモを読み返して理解を定着させ、自分の言葉で内容を説明できるようにしてください。 |

| | | |
|---|---|---|
| 事前受講を推奨する科目 | ミクロ経済学I | |
| | | |

教科書

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『教科書は使用しない』 | | | |
| | | | |
| | | | |

参考書

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『環境政策論』 | 倉阪秀史 | 信山社 | 2015年 |
| 『入門環境経済学』 | 日引聡、有村俊秀 | 中公新書 | 2002年 |
| 『環境マネジメント：地球環境問題への対処』 | 山口光恒、岡敏弘 | 放送大学教育振興会 | 2006年 |

| | |
|---|---|
| 備考 | ・進捗により、スケジュールを変更する場合があります。<br>・ミクロ経済学Iで教わった内容が出てきますが、復習しながら進めます。 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | イントロダクション | 講義全体の進め方の解説 |
| 2 | 環境経済学の基礎① | 市場の失敗としての環境問題・交渉による解決 |
| 3 | 環境経済学の基礎② | 環境政策の手段（直接規制、環境税、排出権取引）① |
| 4 | 環境経済学の基礎③ | 環境政策の手段（直接規制、環境税、排出権取引）② |
| 5 | 環境経済学の基礎④ | 共有資源の管理 |
| 6 | 環境経済学の基礎⑤ | 環境価値の評価① |
| 7 | 環境経済学の基礎⑥ | 環境価値の評価② |
| 8 | 前半のまとめ | 中間試験と前半の内容のまとめを行う。 |
| 9 | 日本の環境政策の歴史① | 公害問題の発生、公害対策の基本枠組みの確立 |
| 10 | 日本の環境政策の歴史② | 環境政策の基本原則（未然防止原則、予防原則、汚染者負担原則、計画的対応、等） |
| 11 | 環境リスク | 環境基準値の考え方 |
| 12 | 日本の環境政策の歴史③ | 都市環境問題への対応、公害対策から環境政策への転換 |
| 13 | 環境アセスメント | 手続き的手法による環境配慮・意思決定 |
| 14 | 地球環境問題 | 持続可能な開発概念・気候変動緩和に向けた国際枠組み |
| 15 | 全体のまとめ | 全体のまとめ |

| 授業科目名 | 公共マネジメント特講Ⅱ　1組＜公共マネジメント実習Ⅱ＞ | 担当教員名 | 岸本　充弘 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 春学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 2年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本授業は、公共マネジメント特講Ⅰを受講後、地方自治体（下関市）における街づくりの現場（文化財保護行政・日本遺産）を通じて行政課題や懸案事項等について学ぶとともに、フィールドワークの手順、現場での調査方法、調査結果の取りまとめ等について習得することを目的としています。特に本学が2024年に日本遺産サポーター校として登録されたことから、更なるPR手法等の検討による日本遺産の周知拡大についてを本授業のテーマとしています。そのため、フィールドワークの流れ、手法、取りまとめ方法等習得後、現場に出てフィールドワークを実施し、結果の取りまとめと成果報告を各グループに分かれて行います。開講は5月以降の予定です。受講人数の制限があります（2クラス合わせて40名程度）。フィールドワークの内容等については変更となる場合があります。 |
| 到達目標 | ・行政等の課題や懸案事項について把握できる。<br>・事前調査を含めたフィールドワークの手法や流れ等について理解できる。<br>・フィールドワークを活かし課題解決へ向けた成果として取りまとめができる。<br>・ディスカッションやプレゼンテーションの技術を身に付けることができる。 |

**評価の方法と基準**

| 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 平常点 | 50 | 授業への出席状況、フィールドワークへの参加状況等 |
| 小テスト | | |
| レポート | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | フィールドワークの成果報告書 |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 下関に係る様々な情報を、ネット、新聞、テレビ、SNS、下関市HP等から収集しておいてください。 |

| | | |
|---|---|---|
| 事前受講を推奨する科目 | 公共マネジメント特講Ⅰ | |
| | 下関学・下関の産業とみらい | |

**教科書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『特に指定しない』 | | | |
| | | | |
| | | | |

**参考書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | この授業は、行政機関等での実務経験のある教員が行う授業です。 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス<br>（5/9） | 全体ガイダンス、フィールドワークの目的、手順、進め方、報告等 |
| 2 | フィールドワークの説明（5/9） | グループ分け、文化財保護行政・日本遺産の概要等について説明、グループ活動 |
| 3 | 事前調査<br>（5/16） | フィールドワーク１回目（文化財保護行政・日本遺産事業）に向けての事前調査 |
| 4 | 事前調査発表<br>（5/16） | フィールドワーク１回目に向けての各グループ事前調査発表 |
| 5 | フィールドワーク①<br>（5/23） | 現場でのフィールドワーク１回目（下関市教委文化財保護課・考古博物館） |
| 6 | フィールドワーク①<br>（5/23） | 現場でのフィールドワーク１回目（下関市教委文化財保護課・考古博物館） |
| 7 | フィールドワーク①まとめ<br>（5/30） | フィールドワーク１回目調査結果取りまとめ・疑問点等整理・課題解決方向性の検討（各グループ） |
| 8 | フィールドワーク①発表<br>（5/30） | フィールドワーク１回目調査結果取りまとめ・疑問点等整理・課題解決方向性の取りまとめ・各グループ発表 |
| 9 | フィールドワーク②事前調査<br>（6/6） | フィールドワーク２回目に向けての事前調査（調査対象・内容・課題解決方向性の検討等） |
| 10 | フィールドワーク②事前調査（6/6） | フィールドワーク２回目に向けての事前調査（調査対象・内容・課題解決方向性の検討等）の取りまとめ・各グループ発表 |
| 11 | フィールドワーク②<br>（6/13） | 現場でのフィールドワーク２回目（日本遺産構成文化財の現状調査等） |
| 12 | フィールドワーク②<br>（6/13） | 現場でのフィールドワーク２回目（日本遺産構成文化財の現状調査等） |
| 13 | 成果報告取りまとめ<br>（6/20） | 日本遺産PR成果報告とりまとめ |
| 14 | 成果報告・発表<br>（6/20） | 日本遺産PR成果報告とりまとめ・発表（各グループ） |
| 15 | まとめ<br>（6/27） | 各クラス代表成果発表・全体のまとめ |

| 授業科目名 | 公共マネジメント論 | 担当教員名 | 砂原　雅夫 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 秋学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 2年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 地方自治体及び住民、経済主体などの公共空間における行動に関して学び、公共政策の必要性について経済学をベースに整理します。特に、所得移転と福祉政策、市場介入と社会的費用の抑制、補助金政策による政策誘導などについて事例を通じて理解します。また、我が国の公共政策の担い手として地方自治体がどのように展開し、住民がどのようにかかわってきたかを住民自治の視点でみていきます。　　これらの考え方を用いて地方都市の人口減少対策、観光誘客対策、環境保全対策、商店街振興対策、教育政策などの有効性について学生の皆さんと考えていきます。また、この分野に関連する公務員試験問題も紹介していきます。 |
| 到達目標 | １,公共政策の役割が理論的に整理され、説明できるようになる。<br>２,地域の課題を行政、住民、経済主体のそれぞれの立場から把握でき、地域において最適な解決手段を身につけることができる。<br>３、自己の住む、都道府県や市町村の公共政策に関心をもち、課題解決にむけて積極的に参画することができる。 |

**評価の方法と基準**

| 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 平常点 | 20 | 出席状況等 |
| 小テスト | | |
| レポート | | |
| 定期試験 | 80 | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 新聞やテレビ等で報道される少子高齢化、担い手不足などの地方における行政課題につて常日ごろ関心をもっておいてほしいと思います。ミクロ経済Ｉについてはよく復習しておいてください。 |

| | | |
|---|---|---|
| 事前受講を推奨する科目 | 公共マネジメント特講Ｉ | |
| | ミクロ経済１ | |

**教科書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

**参考書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『公共経済学と都市政策』 | 中川雅之 | 日本評論社 | 2008 |
| 『公共経営論』 | 田尾雅夫 | 木鐸社 | 2010 |
| 『ゼミナール公共経済学入門』 | 井堀利宏 | 日本経済新聞出版社 | 2005 |

| | |
|---|---|
| 備考 | この授業は、行政機関での実務経験のある教員が行う授業です。 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 公共マネジメントと何か。「公共」の概念について歴史を追って学説を紹介します。 |
| 2 | 経済市場における行政 | 経済市場社会において行政はどのような役割をもつのか学び、大きな政府と小さな政府について論じます。 |
| 3 | 公共財 | 公共財の性質、公共財の最適供給について学び、公共財のマネジメントについて議論します。 |
| 4 | 経済の外部性 | 経済活動にける外部経済、不経済について学び、その対策について議論します。 |
| 5 | 社会的公平性 | 社会的に公平である状態はどのような状態かを考えていきます。 |
| 6 | 民主主義の経済 | 政治と経済、選挙行動の経済について学びます。 |
| 7 | 公共セクター及び公共民間中間組織 | 公共部門を担う政府、公的企業及び第三セクター、非営利法人、ボラティアについて学びます。 |
| 8 | 国の地方行政政策の変遷 | 戦後日本の復興期から今日に至る国の地方政策の変遷について行政、住民のそれぞれの立場から見ていきます。 |
| 9 | 公務員制度 | 公務員組織のあり方、民間職業人と比較しての公務員の位置づけの違いについてみていきます。 |
| 10 | 協働のまちづくり | 産学官連携やパブリックコメント、政策評価について学びます。 |
| 11 | 事例研究（産業政策） | 前半の学習を振り返り、産業政策を事例に行政の民間への関与、補助金政策、産業間の誘発需要について議論します。 |
| 12 | 事例研究（行政パートナー） | 前半の学習を振り返り行政と協働するNPOやボラティアの有効性及び課題について議論します。 |
| 13 | 事例研究（環境政策） | 前半の学習を振り仮り環境政策を事例に環境保全のための補助金、環境規制の功罪について議論します。 |
| 14 | 事例研究（観光政策） | 前半の学習を振り返り観光政策を事例に公共投資、補助金政策、民間と行政の協調政策の功罪について議論します。 |
| 15 | まとめ | 公共マネジメントについてこれまでの学んだことを振り返ります。 |

| 授業科目名 | コミュニケーション心理学 | 担当教員名 | 渡邉　尚孝 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目ナンバリング | | 開講学期 | 秋学期 | 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 2年生 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 人と人のコミュニケーションには、言語的なものと非言語的なものがある。また、伝えたいことが相手に正確に伝わる保証はなく、相互の多様な自己表現を経ることが必要である。本授業では、自身のコミュニケーション傾向を把握し、多様な表現スキルや「聴く」スキル及び感情コントロールについて学び、建設的な議論ができるようになることを目指す。 |
| 到達目標 | ・自分のコミュニケーション傾向を把握することができる。<br>・非合理的な思い込みにとらわれず、感情コントロールができる。<br>・自分らしい効果的な表現スキルを高め、建設的な議論ができる。 |

**評価の方法と基準**

| 評価方法 | 割合（%） | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 平常点 | 50% | 意見交換等による授業貢献、報告・連絡・相談等 |
| 小テスト | 50% | 2回実施する。 |
| レポート | | |
| 定期試験 | | 実施しない。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 事前学習では、テキストの該当箇所を事前に読み、課題内容を把握し、意見表明できる準備をしておくこと。授業では建設的な意見交換を重視します。<br>事後学習では、各自が意見交換等から得られた視点等についてまとめ、質問等をGoogleクラスルームのコメント欄に公開投稿すること。自分の文章は良く吟味すること。平常点に含まれる活動です。 |

| 事前受講を推奨する科目 | | |
|---|---|---|
| | | |

**教科書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『「自分の気持ちをきちんと＜伝える＞技術　人間関係がラクになる自己カウンセリングのすすめ」』 | 平木典子　著 | PHP | 2007年 |
| | | | |
| | | | |

**参考書**

| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 『「心理学の基礎　四訂版」』 | 今田 寛・宮田 洋・賀集 寛　共編 | 培風館 | 2016年 |
| | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 備考 | 【この授業は、臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が行う授業です。】 |

| 授業の計画 | | |
|---|---|---|
| 1 | 対人関係におけるコミュニケーション | 授業概要説明。対人コミュニケーションにおける心の動きや様々な表現について理解する。 |
| 2 | 誤解やズレを前提とした交流 | 自らのコミュニケーションニーズを把握し、誤解やズレを補う交流プロセスを理解する。 |
| 3 | 全てを表現することの限界を知る。 | 自らのコミュニケーションを振り返る。 |
| 4 | 相手を理解する | 相手の準拠枠にそって理解することの大切さを知る。 |
| 5 | コミュニケーション傾向を理解する(1) | 物事の認知傾向を知る。 |
| 6 | コミュニケーション傾向を理解する(2) | 自身の言動を振り返る。 |
| 7 | コミュニケーション傾向を理解する(3) | 自身の優先事項を知る。 |
| 8 | 非主張的なコミュニケーション | 不安の中身を知る。 |
| 9 | 攻撃的なコミュニケーション | 自分の欲求を知る。 |
| 10 | 自分の感情を自覚する | 自分の気持ちを把握し、感情は自然なものと認める。 |
| 11 | 自分自身をオープンにする | アサーションとABCD理論について学ぶ。 |
| 12 | 相手の話に耳を傾ける(1) | アクティブリスニングを実践する。 |
| 13 | 相手の話に耳を傾ける(2) | 感情をとらえる姿勢を学ぶ。 |
| 14 | 非言語のコミュニケーション | 非言語コミュニケーションの種類を知り、意識的に活用する。 |
| 15 | 問題解決のための議論 | DESC法を意識して討論する。 |